

梶山 泰生 教授 略歴

1967年（昭和42年）6月13日 愛知県名古屋市に生まれる

学 歴

1992年（平成4年）3月 東京大学法学部第3類（政治コース）卒業
 1997年（平成9年）3月 東京大学大学院経済学研究科企業・市場専攻修士課程修了
 2000年（平成12年）3月 東京大学大学院経済学研究科企業・市場専攻博士課程単位取得退学
 2003年（平成15年）11月 東京大学博士（経済学）

職 歴

1992年（平成4年）4月 ソニー株式会社
 1997年（平成9年）4月 日本学術振興会特別研究員（DC1）
 1998年（平成10年）9月 ペンシルベニア大学ウォートン校客員研究員
 2000年（平成12年）4月 東京大学大学院経済学研究科助手
 2001年（平成13年）10月 京都大学大学院経済学研究科助教授
 2004年（平成16年）4月 国立大学法人京都大学大学院経済学研究科助教授
 2006年（平成18年）4月 国立大学法人京都大学大学院経営管理研究部助教授
 2007年（平成19年）4月 国立大学法人京都大学大学院経営管理研究部准教授
 2008年（平成20年）4月 学校法人梶山女学園参与
 2009年（平成21年）4月 スタンフォード大学 経営科学・工学部門 仕事・技術・組織センター客員研究員
 2010年（平成22年）3月 国立大学法人京都大学大学院経営管理研究部教授
 2021年（令和3年）4月 梶山女学園大学現代マネジメント学部教授（現在に至る）

学会および社会における活動等（近年の主なものに限定）

2007年（平成19年）4月 国際ビジネス研究学会理事（現在に至る）
 2011年（平成23年）9月 組織学会評議員（2014年8月まで）
 2016年（平成28年）9月 組織学会評議員（現在に至る）
 2016年（平成28年）10月 株式会社三菱総合研究所フェロー（現在に至る）
 2017年（平成29年）4月 一般社団法人京都ビジネスリサーチセンター代表理事（2019年3月まで）
 2018年（平成30年）4月 大阪商工会議所 都心型オープンイノベーション拠点「Xport」アドバイザー（2021年3月まで）

梶山 泰生 教授 業績一覧

(著書・単著)

梶山泰生 (2009). 『グローバル戦略の進化—日本企業のトランスナショナル化プロセス—』 有斐閣.

(著書・分担執筆)

梶山泰生・新宅純二郎 (1998). 「製品イノベーションを導く戦略の一貫性」伊丹敬之・宮本又郎・加護野忠男・米倉誠一郎 (編著) 『イノベーションと技術蓄積』 (pp. 110-139). 有斐閣.

藤本隆宏・梶山泰生 (2000). 「アジア・カーとグローバル戦略—グローバル・ローカル・トレードオフに対する動的なアプローチ—」青木昌彦・寺西重郎 (編著) 『転換期の東アジアと日本企業』 (pp. 405-454). 東洋経済新報社.

梶山泰生 (2000). 「カラーテレビの製品開発—戦略的柔軟性とモジュラー化—」藤本隆宏・安本雅典 (編著) 『成功する製品開発』 (pp. 63-86). 有斐閣.

Sugiyama, Y. (2000). Product development in Indonesia: A dynamic view on global strategy. In J. Humphrey, Y. Lecler, & M. Salerno. (Eds.), *Global strategies and local realities: the auto industry in emerging markets*. (pp. 176-206). Macmillan.

梶山泰生 (2000). 「ユーザー・イノベーション」「トランスナショナル企業」「情報粘着性」高橋伸夫 (編著) 『超企業・組織論』 (pp. 109-118, 141-150, 203-212). 有斐閣.

梶山泰生 (2001). 「製品アーキテクチャと国際経営戦略—カー・オーディオ事業のケース—」藤本隆宏・青島矢一・武石彰 (編著) 『ビジネス・アーキテクチャ』 (pp. 246-260). 有斐閣.

梶山泰生 (2003). 「国際生産・技術管理」藤本隆宏 (編著) 『生産・技術システム』 (pp. 247-276). 八千代出版.

太田原準・梶山泰生 (2005). 「アーキテクチャ論から見た産業成長と経営戦略—オープン化と囲い込みのダイナミクス」藤本隆宏・新宅純二郎 (編著) 『中国製造業のアーキテクチャ分析』 (pp. 117-147). 東洋経済新報社.

梶山泰生・依田高典・長内厚 (2006). 「標準化の利益を阻むもの—第3世代携帯電話の事例—」経済産業省標準化経済性委員会 (編著) 『国際競争とグローバルスタンダード』 (pp. 155-192). 日本規格協会.

梶山泰生・長内厚 (2006). 「標準化戦略の多面性—メモリーカード業界における競争と協調—」経済産業省標準化経済性委員会 (編著) 『国際競争とグローバルスタンダード』 (pp. 193-229). 日本規格協会.

梶山泰生 (2009). 「試験・検査方法標準の戦略的活用」新宅純二郎・江藤学 (編著) 『コンセンサス標準戦略』 (pp. 100-124). 有斐閣.

梶山泰生 (2017). 「オープン・イノベーションと内部組織・戦略策定」安本雅典・真鍋誠司 (編

著)『オープン化戦略：境界を越えるイノベーション』(pp. 130-152). 有斐閣.

(学位論文)

梶山泰生 (1997). 「グローバル製品開発マネジメントーグローバル・アーキテクチャー管理による製品開発組織の効率化ー」東京大学.

梶山泰生 (2003). 「国際製品開発の戦略経営」東京大学.

(学術論文)

梶山泰生 (2001). 「製品設計とグローバル標準化概念」『国際ビジネス研究学会年報』7, 177-190.

梶山泰生 (2001). 「グローバル化する製品開発の分析視角」『組織科学』35(2), 177-190.

梶山泰生 (2005). 「海外製品開発拠点の能力構築と国際統合ーホンダの北米開発拠点の事例分析ー」『経済論叢』175(3), 109-135.

梶山泰生 (2005). 「技術を導くビジネスアイデアーコーポレート R&D における技術的成果はどのように向上するかー」『組織科学』39(2), 52-68.

梶山泰生・長内厚 (2007). 「技術統合の促進要因ー既存知識の効果的活用と研究側からの提案の意義ー」『赤門マネジメント・レビュー』6(5), 79-94.

梶山泰生 (2007). 「多国籍企業の進化論の展開可能性」『商学論集』76(2), 187-198.

高尾義明・梶山泰生 (2008). 「ビジネス・エコシステムの概念とその生成の条件」『首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻 Research Paper Series』44.

前川佳一・梶山泰生・姜聖淑・八巻恵子 (2009). 「フィールドワークの事業化ー富士通におけるサービスビジネスへの転換ー」『組織科学』42(4), 21-36.

鈴木信貴・梶山泰生 (2009). 「工作機械メーカーのソリューション・ビジネスーヤマザキマザック株式会社ー」『京都大学大学院経済学研究科 Working Paper』J-72.

武石彰・梶山泰生・三品和広 (2010). 「『組織科学』の足跡 (1967-2009 年)：誰が、何を、どのように論じてきたのか」『組織科学』44(1), 34-48.

梶山泰生・高尾義明 (2011). 「エコシステムの境界とそのダイナミズム」『組織科学』45(1), 4-16.

梶山泰生・龔園園 (2013). 「中国企業による日本企業への資本参加ーレナウンと如意科技の事例を題材とした試論ー」『組織科学』46(4), 29-44.

孫徳峰・梶山泰生・菊谷達弥 (2015). 「正当性と社会化が可能にする現地適応ー多国籍企業における『古典的適応』と『探索的適応』の定量分析ー」『経済論叢』188(4), 39-57.

孫徳峰・梶山泰生 (2015). 「海外製品開発拠点の能力構築における探索と活用の順序ー日本分析計測機器メーカーの中国開発拠点の事例分析ー」『国際ビジネス研究』7(1), 67-80.

Funatsu, S., & Sugiyama, Y. (2017). Knowledge transfer obstructs knowledge application: Qualitative study on open innovation. *Kyoto University Graduate School of Economics Discussion Paper Series*, E-17-010.

Funatsu, S., & Sugiyama, Y. (2017). Inherent logic multiplicity and deposition of institutional logic: Qualitative study on open innovation. *Kyoto University Graduate School of Economics Discussion*

Paper Series, E-17-011.

- 中原久美子・梶山泰生 (2018). 「コンセンサス形成プロセスで導かれる利潤獲得可能性—家庭用エアコンにおける新冷媒の標準形成過程—」『経済論叢』192(1), 125-149.
- 潘卉・梶山泰生 (2020). 「変化する地域統括機能：多国籍企業の地域統括会社に対する事例分析」『国際ビジネス研究』12(2), 65-80.

(学会発表)

- 梶山泰生 (1997). 「グローバル・アーキテクチャーによる製品開発の効率化」組織学会 1997 年度研究発表大会, 富山大学.
- 梶山泰生 (1998). 「アーキテクチャーの国際資源配置に与える影響」国際ビジネス研究学会 1998 年度関東支部研究発表, 早稲田大学.
- 梶山泰生 (1999). 「知識共有による立地特殊優位の企業特殊化—製品開発の現地化を促進する要因—」組織学会 1999 年度研究発表大会, 北陸先端科学技術大学院大学.
- Fujimoto, T., & Sugiyama, Y. (1999). Product development for Asia car: A dynamic view on global strategy. *GERPISA 7th International Colloquium*, Paris, France.
- Fujimoto, T., & Sugiyama, Y. (2000). Evolution of global product development strategy: A case of Asia car. *The 19th Annual HOSEI University International Conference*, Hosei University, Japan.
- 梶山泰生 (2001). 「製品開発の国際的立地の決定要因—自動車産業のケース—」2001 年度国際ビジネス研究学会関東支部研究発表, 早稲田大学.
- Sugiyama, Y., & Fujimoto, T. (2002). Transforming knowledge into strategic action: An explorative study on the process of Nissan's recovery. *The 18th EGOS (European Group for Organizational Studies) Colloquia*, Barcelona, Spain.
- 梶山泰生 (2002). 「中国企業の競争力と製品アーキテクチャ」アジア自動車産業研究会, 東京大学.
- Sugiyama, Y. (2003). The structure of Chinese motorcycle industry and the strategies of Japanese companies. *International Symposium on "China's Economic Development and Structural Change in East Asia,"* Kyoto University, Japan.
- Sugiyama, Y. (2003). Organizational mode switching in strategy process: Transforming knowledge into strategic action. *Academy of Management 2003 Annual Meeting*, Seattle, US.
- 梶山泰生 (2003). 「海外製品開発拠点における能力構築：ホンダの北米開発拠点の事例分析」国際ビジネス研究学会第 10 回全国大会, 明治大学.
- 梶山泰生 (2003). 「製品アーキテクチャの転換と国際戦略：オートバイ産業の事例」復旦大学日本研究センター第 13 回国際シンポジウム, 上海, 中国.
- Sugiyama, Y., & Heller, D. A. (2004). Exploration through exploitation in the internationalization of product development: A case of the Japanese automobile industry. *Mitsubishi Bank Foundation Conference*, Mishima, Japan.
- Sugiyama, Y., & Heller, D. A. (2005). Exploration through exploitation in the internationalization of product development: A case of the Japanese automobile industry. *Academy of Management 2005 Annual Meeting*, Honolulu, US.

- 梶山泰生 (2005). 「標準化競争における位置取り戦略：メモリーカード業界における競争と協調」研究・技術計画学会第 20 回年次学術大会, 政策研究大学院大学.
- 梶山泰生 (2005). 「コーポレート R&D における技術的成果はどのように向上するか：重量級 PL のソーシャルキャピタル」組織学会関西支部研究会, 京都大学.
- Sugiyama, Y. (2006). Research on product architecture and innovation: A perspective from Japan. *Asia Academy of Management 2006 Annual Meeting*, Waseda University, Japan.
- Sugiyama, Y. (2007). Business concept as the map of technology: Determinants of technological performance in corporate R&D. *Academy of Management 2007 Annual Meeting*, Philadelphia, US.
- 梶山泰生・中原久美子 (2007). 「標準化競争における位置取り戦略：メモリーカード業界における競争と協調」研究・技術計画学会第 22 回年次学術大会, 亜細亜大学.
- 梶山泰生・高尾義明・具承桓・久保亮一 (2008). 「ビジネス・エコシステム生成のメカニズム—光ファイバ通信の事例—」組織学会 2008 年度研究発表大会, 神戸大学.
- Sugiyama, Y. (2008). Research on strategy in Japan: In the era of Japan-passing?. *Academy of Management 2008 Annual Meeting, PDW*, Anaheim, US.
- 梶山泰生・高尾義明・具承桓・久保亮一 (2008). 「ビジネス・エコシステムの生成における中核的企業の役割—光ファイバ通信の事例—」研究・技術計画学会第 23 回年次学術大会, 東京大学.
- 久保亮一・梶山泰生・高尾義明・具承桓 (2008). 「知識移転研究における分析方法の検討」研究・技術計画学会第 23 回年次学術大会, 東京大学.
- 具承桓・梶山泰生・高尾義明・久保亮一 (2008). 「系列型エコシステムの形成とプレイヤーの役割—日本の自動車産業におけるイノベーション・システムと技術移転—」研究・技術計画学会第 23 回年次学術大会, 東京大学.
- Sugiyama, Y. (2008). Research on strategy in Japan: In the era of Japan-passing?. *Asia Academy of Management 2008 Annual Meeting*, Taipei, Taiwan.
- Sugiyama, Y., Kikutani, T., & Sawabe, N. (2009). Capabilities to sell technologies: Open innovation and internal organization of diversified firms. *The 25th EGOS (European Group for Organizational Studies) Colloquia*, Barcelona, Spain.
- Sugiyama, Y., Takao, Y., & Kubo, R. (2010). Heritage of collaborative research and creation of business ecosystem: An empirical study of fiber optic communications. *The 26th EGOS (European Group for Organizational Studies) Colloquia*, Lisbon, Portugal.
- Sugiyama, Y., & Yamauchi, Y. (2011). Reflexivity and the duality of continuity and discontinuity in research and development. *The 27th EGOS (European Group for Organizational Studies) Colloquia*, Gothenburg, Sweden.
- Yamauchi, Y., & Sugiyama, Y. (2012). Bridging research and market: A case of an industrial research lab. *Academy of Management. 2012 Annual Meeting*, Boston, US.
- Sugiyama, Y. (2015). Capability for explorative international expansion in Japanese firms: An empirical study of product development for Asian countries in Japanese manufacturing MNCs. *Academy of Management 2015 Annual Meeting, PDW (Professional Development Workshop)*, Vancouver, Canada.
- 梶山泰生・舟津昌平 (2016). 「知識移転が阻害する知識活用—オープンイノベーションにおける定

- 性研究—」組織学会 2016 年度研究発表大会, 兵庫県立大学.
- Sun, D., Sugiyama, Y., & Kikutani, T. (2016). Do institutional voids facilitate explorative adaptation?. *Academy of Management 2016 Annual Meeting*, Anaheim, US.
- Funatsu, S., & Sugiyama, Y. (2017). Inherent logic multiplicity and deposition of institutional logic: Qualitative study on open innovation. *The 33th EGOS (European Group for Organizational Studies) Colloquia*, Copenhagen, Denmark.
- 吉田悠記子・梶山泰生 (2017). 「投資主体の資源と制度ロジックの影響」日本ベンチャー学会第 20 回全国大会, 九州大学.
- 梶山泰生 (2018). 「既存企業による起業エコシステムの活用と制度ロジック」組織学会 2018 年度研究発表大会, 東京大学.
- Sugiyama, Y. (2018). Heritage of collaborative research and creation of business ecosystem: An empirical study of fiber optic communications. *Academy of Management 2018 Annual Meeting, PDW (Professional Development Workshop)*, Chicago, US.
- 真鍋誠司・米山茂美・安本雅典・内田康郎・梶山泰生 (2018). 「オープン化の戦略」組織学会 2019 年度年次大会, 小樽商科大学.
- 舟津昌平・梶山泰生 (2019). 「産学連携における科学の『分化』と『形態形成』—医薬品・医療機器産業を対象とした事例研究—」組織学会 2019 年度研究発表大会, 駒澤大学.
- 羽田祥子・梶山泰生 (2019). 「見えざる防御メカニズム—サメと泳ぐ起業家の戦略についての質的研究—」組織学会 2019 年度研究発表大会, 駒澤大学.
- Funatsu, S., & Sugiyama, Y. (2019). Knowledge Acquisition Obstructs Application: Qualitative Study on Collaborative R&D Project. *Academy of Management 2019, Annual Meeting*, Boston, US.
- 羽田祥子・梶山泰生 (2020). 「覚悟と矜持—スタートアップが提携先企業を選択する基準に関する質的研究」組織学会 2020 年度研究発表大会, 横浜国立大学 (オンライン開催).
- Hata, S., & Sugiyama, Y. (2020). Invisible defense mechanism: Qualitative research on strategy of entrepreneurs swimming with sharks. *Academy of Management 2020 Annual Meeting*, Virtual meeting.
- 舟津昌平・伊藤智明・梶山泰生 (2020). 「同床異夢としてのアカデミックエンゲージメント—ベンチャー企業の産学連携の『始まり方』について—」日本ベンチャー学会第 23 回全国大会, 早稲田大学 (オンライン開催).